

PROGRAM NOTE

『愛は屈せず、不滅の愛』

< 淀橋教会機関紙「愛の祈り」より転載 >



『韓国孤児の母』と慕われた田内千鶴子さん。生前、韓国で孤児救済のために生涯をかけたクリスチャンで、「孤児の少ない社会」とともに、日本と韓国のこころの交流を願っていました。彼女の生誕100周年を迎え、その遺志と精神を受け継ぎ、日本と韓国が手を携えて、親のいない子どもたちのために、国連「World Orphans Day」を制定する推進大会が、千鶴子さんゆかりの地木浦（モッポ）で10月31日に開催されました。日本人代表として出席された淀橋教会主任牧師峯野龍弘先生が12月2日（日）と9日（日）2回にわたって推進大会の様子を伝えます。

『愛は屈せず、不滅の愛』

淀橋教会機関紙「愛の祈り」より転載

愛の人「内田千鶴子」の生誕100年を迎えた。既に故人となって久しいが、実に愛は不滅だ。彼女はその愛の働きのゆえに今なお生きている。



時は、日本帝国時代。総督府の役人の娘であった千鶴子が、人々から「乞食大将」と蔑まれていた韓国青年、これまた彼女に劣

らぬ愛の人、尹到宏と結婚したのだ。彼は、親もなく住む家もない孤児たちを見つけては、自分の住んでいる教会に連れて来て、寝食を共にした。これこそが今日の「木浦共生園」の始まりであった。千鶴子は音楽教師をしていたが、彼の働きに共感し、大いに余暇を

用いて彼を助け、奉仕しているうちに、いつしか二人の間に愛が芽生え、遂に夫婦となった。

ところが間もなく戦争が激化し、対日感情は悪化し、日本人妻のいる共生園への食糧供給も途絶えて来た。そればかりか日に日に迫害が増し、帰国を迫られた。

しかし、千鶴子は多くの身を寄せる哀れな子らを愛し、夫を愛し、決して片時も屈することはしなかった。縋りつく子らを強く抱きしめる千鶴子の愛は強かった。

遂に日本帝国時代は終わったが、続いて朝鮮動乱が始まった。夫、到宏は連合軍に連行され、帰らぬ人となってしまった。反日感情はいよいよ高まり共生園取り潰しの火の手があがった。

夫に代わり園長となった日本人妻に対する風当たりは増し、共生園乗っ取り並びに取り潰しの嵐が激しく吹き荒れた。しかし、孤児の母千鶴子の愛は屈せず、母の愛が勝利した。

この不屈の愛が、遂に韓国3000人の孤児を救った。真の愛、孤児の母千鶴子の愛には国境もなく、民族もない。ただそこには一筋の不滅にして永遠のアガペーがあった。



G. サーバント



『サタデー・トーク』

きき手 尾崎一夫
毎週土曜日放送

12月 1日	関東地区リスナーの集い (2)
12月 8日	録音スケッチ：ゴミ谷のクリスマス
12月15日	クリスマス・ファンタジー：三本の木
12月22日	アリゾナからメリー・クリスマス
12月29日	ふれあいインタビュー：江原進さん（横浜）

放送後の番組は、ホームページ (<http://japanese.hcjb.org>) のトップページ左側メニューにある『インターネット放送』のリンクページからお聴きいただけます。(mp3形式)

放送時間：日本時間午前7時半～8時

放送周波数： 15525kHz 19mb)

(米国アリゾナ制作/オーストラリア送信)

『バイブル・トーク』

東京淀橋教会 峯野龍弘主管牧師
毎週日曜日放送

12月 2日	韓国孤児の母 田内千鶴子 (1)
12月 9日	韓国孤児の母 田内千鶴子 (2)
12月16日	リスナーからの「お便り交換」の時間
12月23日	クリスマス・メッセージ
12月30日	年末メッセージ

HCJB 日本語放送

新住所：HCJB（日本語放送）5701 N INDIAN TRAIL TUCSON AZ 85750 USA